

## 6 派遣結果報告

### 「世界遺産・サンティアゴの巡礼路と聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラ」視察について

[5/21 (月)、22 (火)]

【文責：森高 康行】

久方ぶりの県議会海外派遣で、スペイン方面に二十数年ぶり二回目の訪問が実現した。

松山を 20 日の朝一番に出発、羽田、パリ経由で約 13 時間の飛行で時差マイナス 7 時間。永い一日で深夜に、サンティアゴ・デ・コンポステーラ市のホテル着。改装済の 18 世紀の建物を利用した豪華で美しいエコホテルで、庭園、噴水、川のある落ち着いた快適な空間であった。

ガイドによると、スペインでは 7 年前の東日本大震災時にはテレビの画面の一部にずっと NHK の震災映像が流れ続けて、不景気な状況にもかかわらず、寄付金も多く届けられた親日国であるとのことであった。

視察二日目の朝、巡礼の道カミノフランチェーズと北部の路を借り上げバスから視察し、多くの歩き巡礼者も目の前のゴール、聖ヤコブの大聖堂を目指して歩きで 100 キロメートル・自転車や馬で 200 キロメートルで証明書が発行されるオブラドロ広場に早足で向かっていた。

このサンティアゴ巡礼は、エルサレム、ローマのバチカンと並ぶキリスト教の三大聖地の一つであり、ヨーロッパは基より、南米、オーストラリアなど様々な国から異なる言葉、民族の人々があふれていた。パリから 1,500 キロメートル・スペイン国内だけで 800 キロメートルといわ



中世から多くの巡礼者が訪れていた  
“歓喜の丘”を視察

れる道で、米山智美さんの解説本によると、巡礼は、本来罪の浄化・魂の救済・そして精神の修養を意味するという。20 世紀以降、再び増加の一途をたどっている巡礼者。新しい人間に生まれ変わるといふこと、それは現代においては自己改革ともいえるかも知れないとの事で、若

い人々が多いのに驚かされた。

巡礼者が初めて大聖堂を目にする“歓喜の丘”を視察。日本人観光客が多く訪れるが、巡礼者はあまり寄らなくなっているとの解説どおり、朝の訪問者は我々だけ。近くに日本政府が友好 400 年記念に建立した記念碑もあり、何とその上に巡礼に使った古靴が載せられており、ガイドによると浄めの意味から巡礼に使ったブーツを捨てる場所になっているとのこと。

その後、移動して旧市街地に入り大聖堂を視察。昼のミサにおいて、我々日本人訪問団について何度か報告され、特別に、ボタメイロという大香炉を天井から吊り、大きく左右に振る儀式もして頂いた。そもそもこの香炉は風呂もまともに入れずに旅してきた昔の巡礼者たちの、汗や体臭を清めるためにはじまったもの。その心地よい匂いは、心と体を癒してくれるものであった。万座の信者たちは光悦に充ちた素晴らしい表情になり、私たちも感慨深く視察を終えた。



ガリシア州観光局では四国遍路の世界遺産登録に向けてアドバイス等をいただく

午後、ガリシア州観光局ナバ・カストロ・ドミンゲス局長とシャコベオ代表のラファエル・サンチェス・バルギエラ氏、さらに、2021年ヤコブの年担当のミゲハさんと懇談することが出来た。

巡礼の路が、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録されたのが 1993 年。年間、正式登録者だけで約 10 万人が世界各国から巡礼訪問。最終目的地であるヤコブ大聖堂のある歴史地区は 1985 年先んじて登録され、87 年の欧州理事会でサンティアゴ巡礼の道が第 1 番目のヨーロッパ文化ルートとして認められ、6 年後に登録されたものである。

昨年 7 月には、現地で四国八十八か所霊場と遍路世界遺産登録推進協議会による四国遍路に関する展示会も二か月間にわたって催行され、

2015年夏にガリシア州と四国4県が結んだ協力協定に基づくもので、今日のヨーロッパ人の四国遍路に結びついたものと思われる。

各氏より、課題と展望を聞かせて頂いたが、本県にとっても県政課題である四国遍路道の世界遺産登録に向けた具体的な提言も頂いたが、まずは本県愛媛大学巡礼研究センターとサンディアゴ大学との連携を目指



シャコベオ代表のラファエルさんとは夕食会でも四国遍路について意見交換

して担当教授も教えて頂き、今後の前進を期待したい。シャコベオ代表のラファエルさんには夕食会まで開催頂き、美味しいワインとスペイン料理で、遅くまで教えて頂いた。

夕食前に、ガリシア州議会のミゲル議長を表敬訪問して意見交換。



ガリシア州議会では議長から世界遺産登録に関してアドバイスをいただく

州議会議員は定数80で現員75。与党41名。GARISHIA語しか使わない政党や社会党など多彩な党があり、施設も立派な作りで、絵画も沢山飾られています。議長はスペイン王室を大切にしている。議長室に国王陛下ご夫妻の写真が飾られ、歓迎挨拶でも日本人は皇室を大切にするので、親近感があり、議員交流も是非とも進めたい、愛媛を訪問したいという意思表示もあり、然るべき時期に日本側

から招請して欲しいとのことであった。

四国遍路を訪ねたいので、是非招いて欲しいとの意欲的な声も頂き、近い将来実現してほしいものである。視察三日目、バスにより巡礼道350キロメートルを移動。高速道路が立派に整備されていたが、巡礼者のオアシスと呼ばれるモリナセカ町を訪問。

アルフォンソ町長以下担当者の出迎えと、丁寧な案内。その後、素晴

らしいレストランでランチミーティングと、予定時間をオーバーするおもてなしを受けた。州議会議員を兼任する町長は、常に町民に声をかけており、なんと19年町長を務めて来年は、統一地方選挙で6選出馬する50代の素晴らしいリーダーであった。観光案内所には、お遍路展示室もあり、観音寺のちょうさ模型や納経帳などもあり、四国遍路の英文パンフレットも沢山置かれ、巡礼路を終えたら、四国遍路への案内所にもなっていた。簡易宿泊所のアルベルゲも視察訪問して、近くの生木観音像も拝ませて頂いた。



モリナセカ町にある四国霊場開創 1200 年を記念して制作された生木観音像



私の地元、川之江切山の生木地蔵とも通じるものがある。別れを惜しみながら、

バスを飛ばしてアストルガの、アントン ガウディ設計の司教館視察訪問。のんびり散策して疲れを癒し、バスでレオン着。

巡礼路の要路の一つ、レオン市をスペイン人現地ガイドのカミーノさんの案内で、旧市街地を視察訪問。天気も良く、カミーノさんと通訳の塩沢さんとの息もぴったりであった。ガウディの設計した市役所、前のベンチにガウディのブロンズ像が座っており、団員が記念撮影。サン・イシドロ教会の王室霊廟があり、キリストの最後の晩餐の屋根絵もあった。ガウディの弟子が13世紀に50年の歳月かけて整備した、レオンの大聖堂も視察訪問。遠足か課外活動で来ている小学生と交流。私が配布したみきゃんのシールが大人気で、楽しい時間が過ごせた。近くの市場も視察訪問。価格と質の管理に警察が関与しているとのことで、多くの

野菜や果物、チーズ、ハムなど豊かな市場で、15万人の市民の憩いの場でもある様子。最高速度300km/hのAVEという新幹線に乗り、レオン駅でテロ対策に荷物の検査を受け、列車に乗り、快適な車窓観光。あまりに自然が多く驚きであった。整備された首都マドリッド駅で、現地ガイドの高御堂かよさん、留学生としてスペインに来て20年以上になるとのこと。

世界遺産登録への道は色々あると思うが、和歌山県熊野古道調査も必要で、先進地に学ぶ事も大切である。

## 「フラメンコと闘牛だけではない欧州の大国スペインの大使館訪問」

[5/23 (水)]

【文責：森高 康行】

視察4日目、レオンを後にして、新幹線AVEで首都マドリッドに移動。車窓の風景も楽しみながら、携帯電話置忘れ事件や、日本からの電話問題などなどあわただしく移動。



マドリッドにある在スペイン日本国大使館を訪問

在スペイン日本国大使館で平田健治公使と総務政治班の井上琢磨一等書記官が応接してくれた。

概況説明で、人口は4,645万人で日本の40%程度、韓国とほぼ同程度、面積は50.6万km<sup>2</sup>で日本の1.3倍、フランスに次ぎEU第2位。GDPは世界第14位。さらに、人口・経済ともに独・英・仏・伊に次いで欧州第5位。

日本企業の拠点数も独・英・仏・蘭に次ぐ欧州第5位。かつて世界の海を支配する勢いのあったスペイン語圏人には、約5億人でビジネスでも中南米へのゲートウェイ。メキシコ・ペルー・ドミニカ・ホンジュラスなどについて深い知見を有し、通信や金融を中心に企業が中南米に進出。

産業・技術においても高い国際的競争力で、再生可能エネルギーは 42% で世界 4 位。集光型太陽熱発電容量は世界第 1 位とのことである。



大使館では現地情勢説明を受けたほか、四国遍路の世界遺産登録に向けての課題などを議論

私たちがレオンから利用した高速鉄道は、AVE と呼ばれ、1992 年のセビリア万博に合わせて開業されたシステムで、路線総延長が中国・日本に次いで世界第 3 位で、新幹線の本家と呼ばれるフランスを抜いて欧州では 1 位になっているとのこと。実車して、快適であった。フリーゲージトレイン先進国でもあり、10 年前から導入さ

れ、2 分程度で変換するシステムで日本も学ぶに値すると思われた。

意外だったのは、自動車の生産台数が独に次いで、欧州第 2 位とのことで、産業・技術においては、国際競争力が高い国である。

議会君主制の政体であり、一昨年訪日なされたフェリペ 6 世陛下が国王で親日国のひとつである。

最近の政治情勢では、バルセロナなどがあるカタルーニア州の分裂独立問題が目下最大の課題であり、日本でもニュースになっていたが、州政府は州民投票と独立宣言を強行。中央政府が州議会解散し、州知事等解任等で対抗するも、昨年 12 月の州議会選挙の結果、独立派が過半数を獲得。独立派新州知事が選出された。

アパートやマンションには州旗や国旗が掲げられ、分離独立賛成・反対の意思表示がなされているとのことであった。

この背景には、スペイン一国の中で、州で言葉が独自の言葉、例えばスペイン語の他にカタルーニア語が使われていたり、教科書も別の言語もあるという長い歴史があったり、複雑であり理解する事は簡単ではない。

経済回復の実感欠如と政治腐敗事案が頻発したこともあり、二大政党

体制の不満が拡大。二大政党制終焉が、新興政党の伸長であったとの解説も頂いた。

これまで、3,800社以上が登記上の本社を州外へ移転。カタルーニャには日系企業197社が進出した先進工業地域であり、今後の影響が注視される。しかし、観光客が一時的に減少したのを除いて、経済への影響は極めて限定的とのこと。

質問の時間となり、今回視察の主目的である世界遺産登録について多くの示唆を頂いた。①熊野古道の登録に学んで和歌山県を調査。

②八十八ヶ寺総ての登録が必要か否かの検討。

③ユネスコはヨーロッパ的価値観で運営されており、石の文化を大切にしている。

再生かオリジナルか？欧州のロジックに組替えてゆく必要がある。

④外務省の本省にユネスコ代表部があり、調査して知見を得るなどなど。



在スペイン日本国大使館の平田公使（前列左から2人目）らと記念撮影

その他、日本皇室とスペインの王室は親交が深いが、やや異なる。首相候補者を国王が指名し、国連総会でもスピーチをする時もあり、政治発言もある。国王自らが運転もする。

中国との関係では、物量ではかなわない。バザールチャイナと呼ばれ、移民も増えているが、尊敬はなされていない。韓国は存在感が薄い。日本のアニメ

の影響も大きく、国民の対日感は大変良い。

本年は、我が国とスペインの外交関係樹立150周年の節目であり、更なる協力関係の強化の好機であり、絶好のタイミングでの訪問となった。夕食の場では、酒の勢いもあり、本音の意見交換がなされ、実に有意義な交流が深まった。

関係者に心よりの感謝を申し上げます。

## スペインガリシア州政府観光局等との意見交換を終えて

[5/21 (月)]

【文責：徳永 繁樹】

出国の当日深夜、サンティアゴ市内に到着した我々一行は、翌日午前からバスと徒歩で移動を繰り返しながら、巡礼ルートของサンティアゴ市内から約4キロ地点にあり、2013年6月には皇太子殿下もご訪問された「歓喜の丘」やサンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂、旧市街地等を視察後、12時には愛媛県議会からの公式派遣ということで特別な配慮をいただき、巡礼者用のミサに出席。大祭壇の中でミサを聴き、ボタフメイロという中世から巡礼者の心身を清める目的で行われている大香炉の儀式に参加させていただいた。

その後、サンティアゴ市の郊外にあるガリシア州政府観光局を訪問、意見交換に臨んだ概要を下記に列挙する。

州政府観光局の出席者は、

- ・ナバ・カストロ（州政府観光局長）
- ・ラファエル・サンチェス（シャコベオ/巡礼道管理運営局〈シャコベオとはガリシア語で聖ヤコブの意味〉州政府全額出資の外郭組織の代表）
- ・セリシア・ペレイラ（2021年の聖なる年というカトリック・キリスト教世界の重要な宗教行事に向け、州政府として様々なイベント・

巡礼等のプロモーションを行う組織の代表）

まず、ナバ・カストロ氏やラファエル・サンチェス氏から、2015年にガリシア州政府が四国4県と協定を締結した背景として、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向け、国内外の情報発



ガリシア州観光局での意見交換会の様子



信を図り、国際的評価を高めることを主眼としたものであり、州政府としては、「巡礼道」の世界遺産への登録と観光プロモーションの先駆者として、意見交換や日本でのセミナーの開催や助言の提供等、協力・支援をしていく姿勢が表明され、既に2015年のガリシア訪問の際にも世界遺産登録に向けた具体的な手続きや登録に当たっての重要なポイントを示した「登録のためのセミナー」をシャコベオ主催で行っており、その資料やセミナーの果実を四国各県で情報共有してもらいたいとお話があった。



ガリシア州観光局での意見交換会後に  
全員で記念撮影

また、互いに「巡礼」という伝統を尊重しながらも、その近代化に努めている点や、「リアス入り江」を多く抱える地理的条件においても共通点があり、今後、様々な面で

協力・連携できるのではないかと

言及され、これまで日本との関わりの事項として、日本の料理人（徳島県出身の小山氏、東京料亭青柳の経営者）をガリシアに招待し、州立のホテル学校で日本料理のレクチャーを行ったり、対外的な宣伝活動として、和歌山県・熊野古道との「姉妹道協定」締結に基づき、協同プロモーションの一環で、2008年には「協同の写真集/日本人写真家がサンティアゴ巡礼を歩き、ガリシア人写真家が熊野古道を歩いて撮影するという写真家の交流」を作成し、日本やパリで展示会を開催し、好評を博したりもしているので、同様の取組みも効果があるのではないかと提案をいただいた。

他方、国や州をまたぐ1,500キロのサンティアゴ巡礼の維持保存に向けての体制整備についてはどうかとの我々の質問に対しては、1991年、スペイン国家レベルでハコベオ（聖ヤコブ）理事会という組織が発足され、スペイン政府とサンティアゴ巡礼の通る九つの州が文化・教育・国

際協力・観光・経済・土木・環境の分野で一体となって維持保存に努めているとのことであり、とりわけ、ガリシア州政府として特記すべきは、1992年にシャコベオという全額出資の組織を設置し、「サンティアゴ巡礼」というヨーロッパ中世からの信仰の道を持つ文化遺産に対する州政府の基本的な方針を定め、予算や管理運営、市町村との連携を開始し、「サンティアゴ巡礼」のプロモーションの世界展開を始めた結果、巡礼者や観光客が大幅に増加したとのことであった。

更に州内で整備されている九つのルートの中で、州政府が管理している「公共の巡礼者宿泊施設アルベルゲ」は70ヶ所あり、公設民営方式で管理委託しており、現在では100万ユーロを投資して、Wifi環境も整えているとのことである。

因みに、アルベルゲとは6ユーロ/泊、共同の大部屋、トイレやシャワーも共同で、簡易な料理場も有している。

また、民間とは異なり、予約は出来ず、先着順ではあるが、身体障がいやケガ、病気のある方は優先され、基本的には一泊のみとなっている。多くの巡礼者には嗜好があり、こうした公共のアルベルゲや巡礼の道を州政府が整備することにより、当該市町村やその周辺にも民間の宿泊施設やレストランが整備され、大きな経済効果につながっているという。

また、「サンティアゴ巡礼」の知名度が大幅に上昇し、商業的な観光化と巡礼の質をどう担保されているのかとの問いに対しては、「ガリシア州としての理想はサンティアゴ巡礼を歩く全ての人が真の巡礼者であって欲しい。しかしながら、現実としてはありえないので、巡礼の精神を尊重していただき、大聖堂に入ったら、この教会はキリスト信者のためのものということをまずよく理解していただきたい。近年の巡礼やトレッキングブームによる観光化はありがたいものではあるが、やはり巡礼に基づく観光であって欲しい。統計的にもサンティアゴ巡礼を歩く人の93%が巡礼者と答えているなど、多くの方々がその精神を理解していると受け止めている。また、州として、「聖ヤコブ」への信仰以外に、カトリック・キリスト教には多くの聖人がいるが、巡礼の道とあわせて、伝

統的な信仰心を大切にしていきたいと思っている。更に、異なる宗教観というテーマについても我々が熊野古道を訪問した際、神官の方々はともオープンな精神で異なる宗教である我々を温かく迎えてくれたことを覚えており、世界各国からの巡礼者が歩く「サンティアゴ巡礼」も開かれた道であることが何よりも大切であるのではないかとお答えいただき、最後に、「スペイン・ガリシアから本当に遠い日本ではあるが、我々は今年9月20日～23日には東京ビックサイトで開催される〈ツーリズムEXPOジャパン〉に参加し、スペイン政府観光局のスペース内でガリシア州のブースを出展するので、是非、再会出来たらと願っている。また、愛媛県知事にもサンティアゴ巡礼を視察していただけるようお願いしておいて欲しい」とのことであった。



ガリシア州議会ではミゲール・サンタリセス議長と面会

この後、夕刻からガリシア州議会を訪問。議会の提要进行を伺った後、現在のガリシア州議会与党「国民党（右派）」のミゲール・サンタリセス議長に面談。

サンタリセス議長からは歓迎のご挨拶をいただいた後、ご自身の想いであるヨーロッパ全体の歴史文化遺産であるサンティアゴ巡礼に対する深い尊厳と精神をお示しいただき、公務の間を縫って、

サンティアゴ巡礼のフランスルートであるピレネー山脈「ロンセスバージェスの峠」を越え、二日間で50キロほど歩かれたことを披歴され、こうした精神的体験を広く伝えたいと考えているので、是非、「四国遍路」についても視察したいとの申し出もあり、帰国後、四国観光の我々の受け皿である

四国観光議員連盟として、「ガリシア州



サンティアゴ巡礼路のほか、四国遍路の世界遺産登録について意見交換

議会議長」の公式招聘を考えてみたいとお答えさせていただいた。」

終わりに、夜には、サンティアゴ大聖堂の北門、アサバチェリア広場前に位置するスペインで二番目に大きい「聖マルティン・ピナリア修道院」内で、シャコベオの代表であるラファエル・サンチェス氏主催のレセプションに出席し、現在の修道院の利用のあり方や、シャコベオの役割や運営、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向けた課題と現状など、多岐にわたり、活発な意見交換が行われたことを付言しておきたい。

次回があれば、是非、歩いて巡礼をしてみたい、そう思わせてくれる面談であり、素晴らしい想いの詰まったサンティアゴ巡礼路であった・・・。



補足資料：

- ・ 今回の愛媛県議会派遣訪問団に関する「ガリシア州放送」のニュース  
<http://www.crtvg.es/informativos/a-directora-de-turismo-da-xunta-recipe-unha-delegacion-xaponesa-do-camino-de-shikoku-3774011>
- ・ 2013年6月の皇太子殿下のスペイン訪問に関するニュース  
<http://www.lavanguardia.com/politica/20130610/54375852198/princip-e-naruhito-inicia-sexta-visita-espana.html>